

R18
— FOR —
ADULT
ONLY

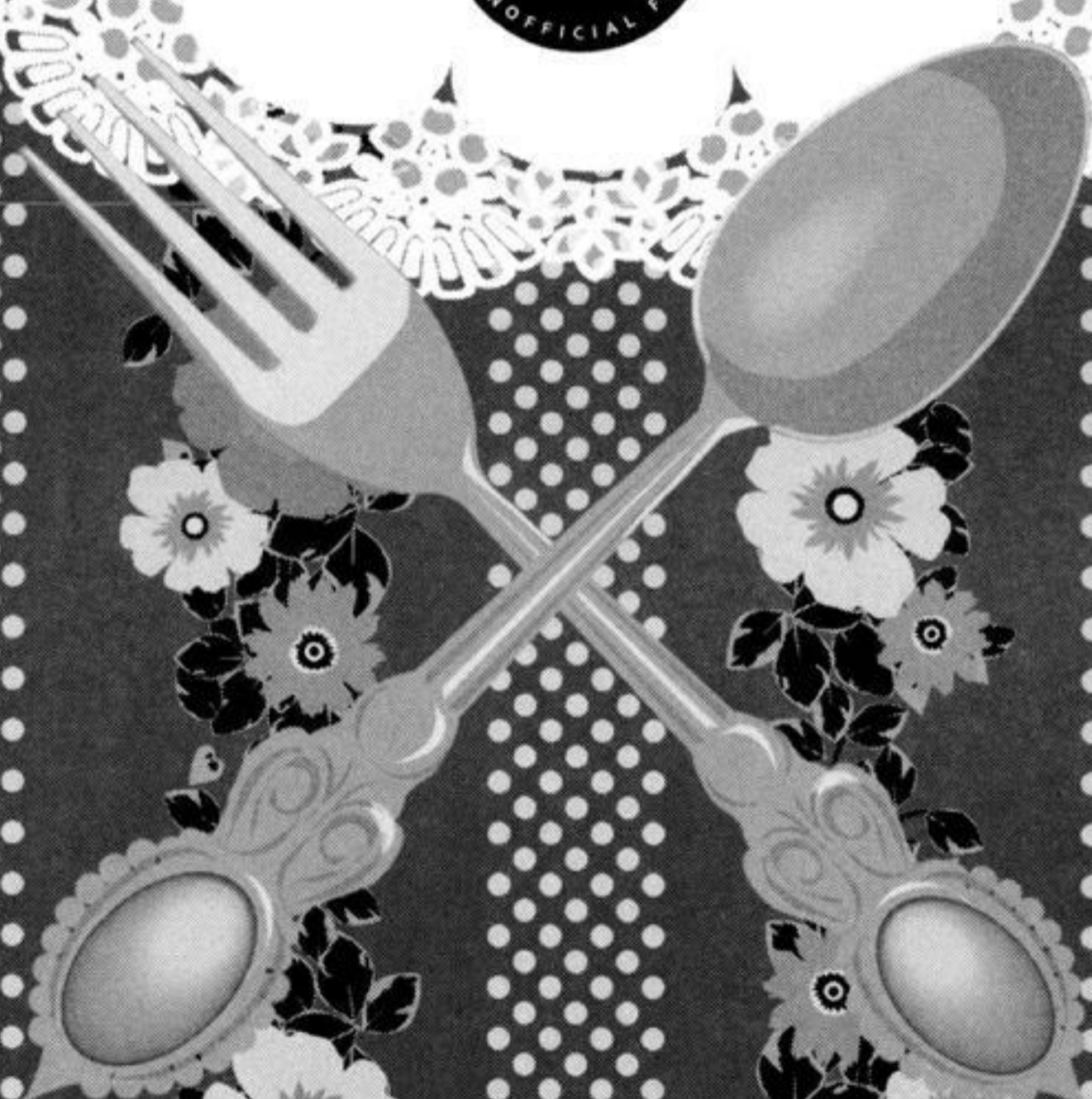
SUGER.
SUGER.

RYUJI HERO

TITLE by ぢぢ

SUGER SUGER

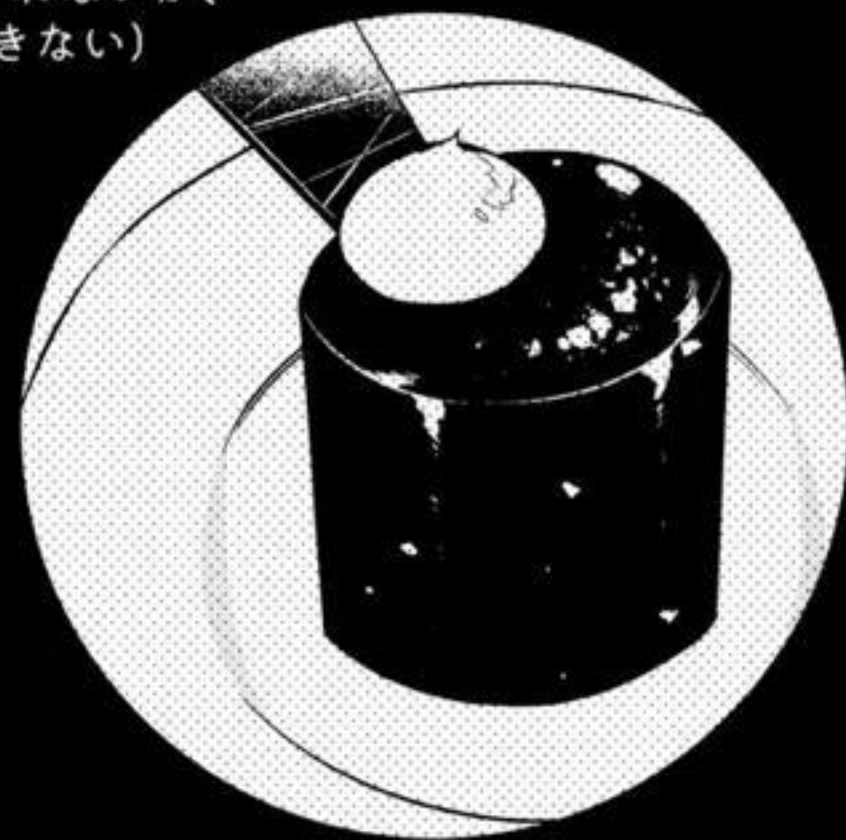
RYUJI × HERO



★
烏丸 薫

173cm/53kg/B型/おとめ座

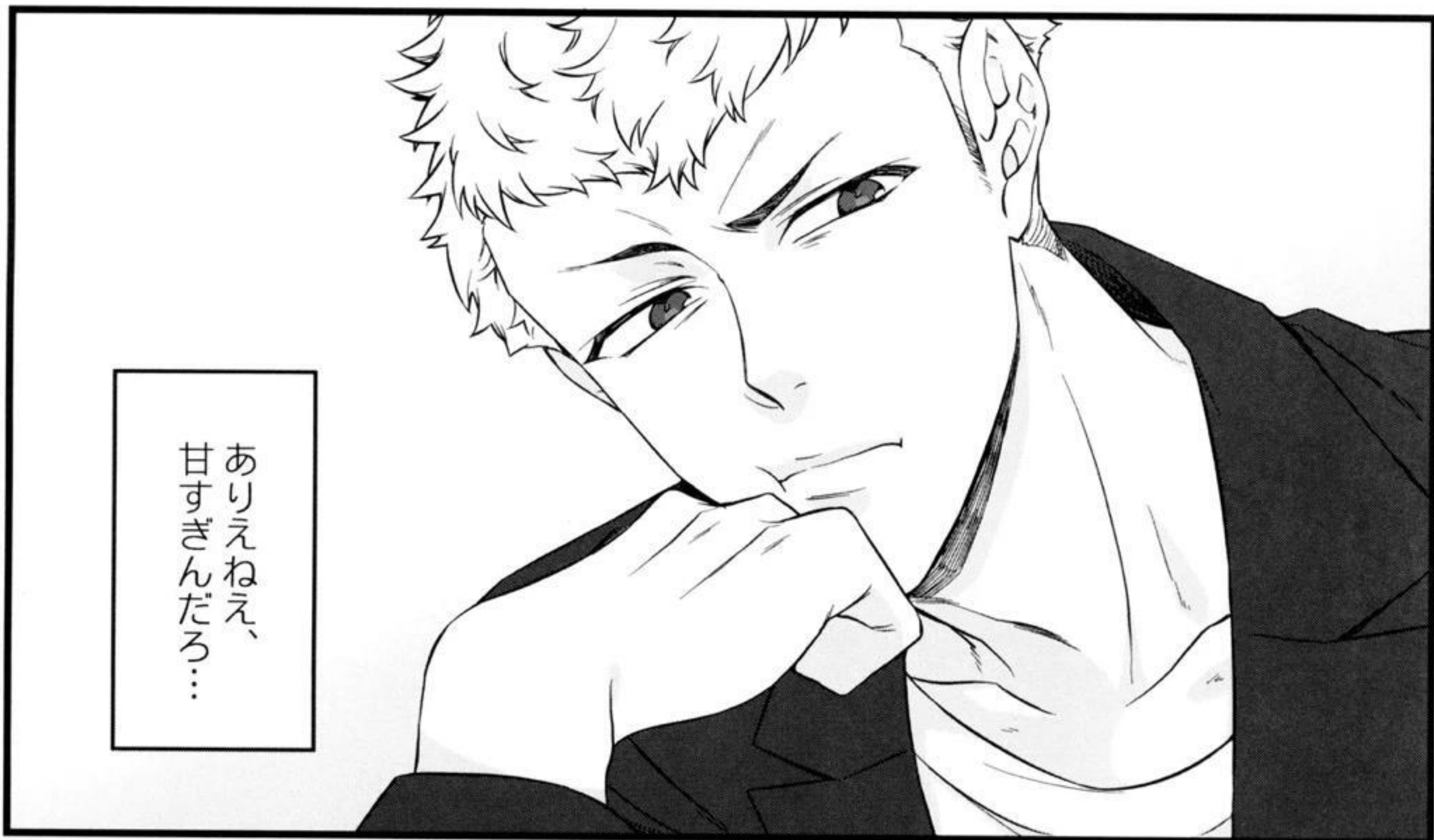
クールを装っているが実はシャイ(かなり)
顔に出ないが自分に自信がなく、普段はとても強がっている。
(擬態がうまいのかそうは思われないが、
竜司と二人きりだとなぜかできない)
押しと寒さに弱い。
チョコとコーヒーが好き。





みろよ、
この
顔

SUGER. ♥ SUGER.



ありえねえ、
甘すぎんだろ…

甘いモン食べてる
薫はかわいい
(特にチョコな)

そのへんの
クレープでも
チョコ味なら
ニコニコしてるし、

なんならコンビニの
チョコ●チョコだって
めっちゃくちゃ喜ぶ



それが
超かわいい!!

んなこと
わかってる!!



てか問題は
そこじゃなくてっ

問題は、
「オレ」にじゃなくて、

「甘いモン」に
「こーゆー顔」
するって「ト」!!





竜司...

んらだよ...

あくん



なんだ、食べるんじゃない。怖い顔してるからほんとにいらんのかと...

別に...
そうじゃねえけど



ん...

ん...

ん...



ん...

ん...



それは...
そんなの...

そんなの?

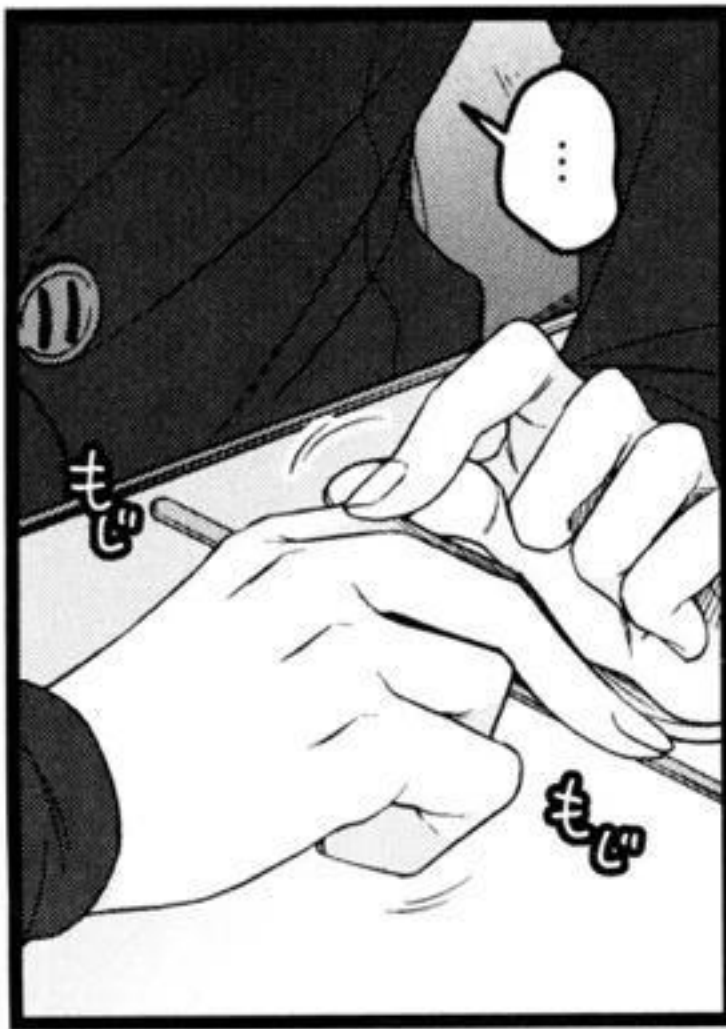
そんなの?

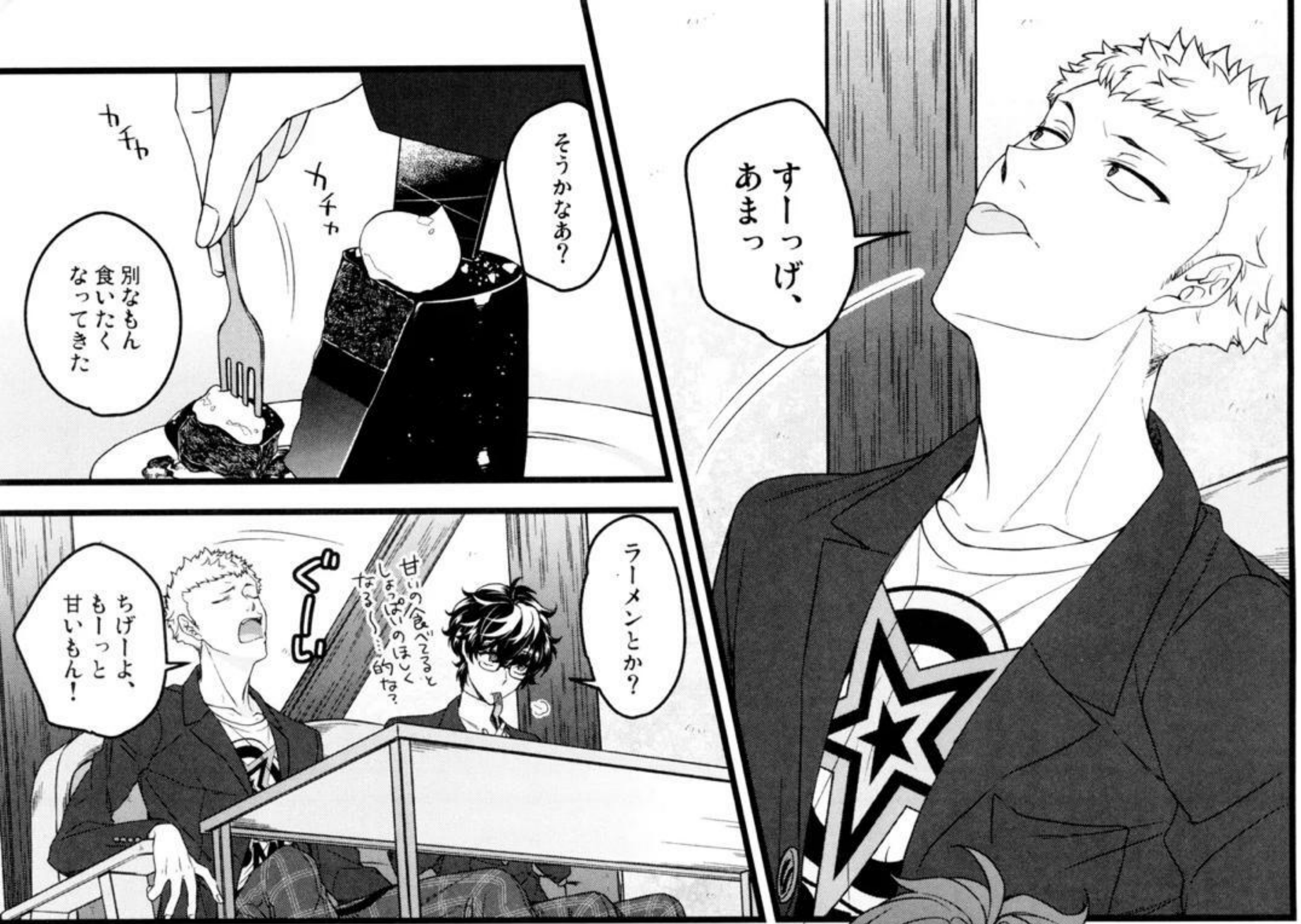


じゃあなんで不機嫌なんだ?

!











な、食わして



わっ。わっ。

ケーキ食った薫のコト食うんだから同じだろ

そ、それはケーキで…

もっと食ってほしいんだろ？

普通に食べよう？
ケーキはケーキだし…

んじゃ、薫は薫だし、オレに食われる…

カタ

はっ
はっ
はっ



こーゆーの
まな板？

いや甘いモン
だから皿かな？



まっ
なんでもいっか

~~~~ツ

んじゃ



いただきますっ ♡

~~~~っ ♡

ケーキよりチョコより
甘いもの？

それは……



かあおる♡

は

お

おっ♡
おっ♡

おっ♡
おっ♡

KONG

おっ♡

おっ♡
おっ♡



好きって言ってん
じゃねえの？

かぶっ

すー

なあ？



んっ♡

んっ

んっ

んっ♡



はは、
耳はどんな味？

かぶっ

ううっ



んっ！

んお、

んっ





あっ!? あ♥
おにやか、
とんとんしひゃ♥

らえ、
らめ…っ♥



んん?
オレは…
こーすんの…っ

すっげえ
好き…っ♥

びしょ

びしょ♥

びしょ



オレが食ってんのに
食わしてる
みてえ



...なあもって
食いたい?

ん...
うん... ♡



ん!

ちゅー♡



すっげー、
薫のからだだ...

甘くっついで! ♡

薫、マジで
お菓子だな

っついても
オレ専用だけど!

あー、
こんな甘いモンなら
いくらでも食えるわ…

あー♡

なあ？

ん、う…
うん…♡

だー♡

かぶる

あー♡
あー♡
あー♡

へ…

あ…

おかわり
しよ♡

♡♡♡



薫、マジで
お菓子だな
つっても
オレ専用だけど！

なにっつて!?
なにっつて
どの口が~~~~っ!!

なにー!!
なにー?

~~~~っ!!



えー?  
だって  
ホントだし



だ、だって...  
俺が竜司の  
甘いものとか...

言ってる  
身にもさ...

耳かき...

~~~~っ...



なん...
かっこよすぎて
死んでしまう...
.....すぎ...



んん?
おーい?



あまた★



...さすがにこれ、モルガナに言い訳できないな... どうしよう...

パンソコ貼るか?





SUGER.
SUGER.



この本ができるまで

こんにちわ、鮎戸です。

この本は表紙の「TITLE by みけ」のとおり、タイトルをみけさん (@xnol) につけてもらった本です。

きっかけはみけさんが「# フォロワーさんをイメージして同人誌のタイトルつける」というタグをやってくれたことで、私は自分で自分の話にタイトルを付けるのが本当に苦手で、このタグはとっても魅力的でした。あと単純に、私のイメージでどんなタイトルを付けてもらえるんだろう…!? と思っていいねを押した記憶があります。(もちろんこのときは本になるなんて思ってませんでした)

みけさんから返ってきたタイトルは「SUGER SUGER」。なんとロゴ付き!!! それだけでもうびっくりだったんですけど、みけさんがタイトルを説明してくれた文の中で「チョコレートに夢中な薫くんとお菓子の嫉妬しちゃう竜司、みたいなお話」と、あらすじまであり…! もう見た瞬間からこのタイトルでなにか描きたい!! だってめちゃくちゃ可愛くないです? このあらすじのお話読みたくないです? 私は読みたい! そして描きたい!! と。その後は、すでにあらすじが素敵だったのでいつの間にかプロットが出来上がってました。

2月のイベントアフターの勢いでみけさんにプロットの第一稿を送りつけたり、ネームを送りつけたりするテロをして(その節は大変お世話になりました。優しく受け止めてくださり本当にありがとうございます…!) 原稿を進めていたら、みけさんから同タイトルでの寄稿文が…!!

もうほんと読ませてもらったあと「これを載せるために私はこの漫画を描いていたんだ…」と思いました。みけさん視点で、自宅主 薫くんの竜主を書いてくださって…! 自分でかく薫くんより可愛いのではと思うのに、ちゃんうちの薫くん…! こういうところある! という描写ばかりで…!! 竜司もかっこよく、全部のシーンが私のお気に入りです。

隣のページはみけさんから頂いか寄稿文のイメージイラストです。好きなシーンを詰め込んだらぎゅうぎゅうになってしまった…; とにかくにも、みけさん版の素敵な「Suger suger」は30Pから! ぜひぜひ余すところなくお楽しみくださいませ!

痕に絆創膏を張ったら割りと大変な感じだった図



あとがき

自分一人で考えてたら、絶対思いつかない素敵なタイトルで本が出せて幸せです。おはなしは、まあまあいつもどおりと言えはいつもどおりなお話だけど、タイトルに合うお話が描けたんじゃないかなあ、など思っております。

本当に本当にタイトルをつけるのが苦手で、これはうめえ! と思えたことがほぼなく、もっとあの本のタイトルはうまくきたんじゃないかなど悩み多きタイトル問題においてこの本は私の同人人生の中で振り返っても「素敵なタイトルの本」と思い出せるなあ…とすでに感慨深いです。

きっかけはツイッターの交流タグでしたが、こんなふうに分だけじゃ出せない本を出せて、みけさんには感謝してもしきれません。ほんとにほんとにありがとうございます…! なんか感謝ばかりしてしまうんですがほんとに感謝しかないのでそう書くしかないのです。事実なので。

あと確か(記憶は薄いですが)はじめはWEB上にあげれるくらいの長さで考えようかななど思っていた時期もありましたが、プロットを書いているうちにどんどん長くなっていったのでほんとに竜主はこわいです。笑

そんなこんなで出来上がった本を、お手にとってくださりありがとうございます。

まだまだ竜主は描いていきますので、また何か描いていたら見てくださると嬉しいです。

最後に、何回も言ってもううんざりかもしれませんが、みけさんには大変お世話になりました。本当にありがとうございます! 良ければこれからもよろしくおねがいします~!



←感想送信用QR

簡単に感想が送れるフォームに飛びます。
送ってくださると描いた人が喜びます!



Suger suger

by みけ



Suger suger みけ

薫は、どこもかしこも甘い。

「お前ってなんか菓子みたいだよな」

「……それって、褒めてる？」

褒めてる褒めてる、と言ってやわらかな髪にキスを落とす。ふわふわの癖毛から微かに香るコーヒーの匂いが心地いい。匂いに誘われるままに唇を寄せた。額、頬、目尻に頬、鼻先とあちこちに唇を触れさせる。肌はやわらかくてすべすべで、口に含めばどこか甘い。やっぱりこいつは菓子なんじゃないかと竜司は思った。

「はー……美味そう……」

「ちよ、竜司……ッひゃ、」

無防備に晒された首筋に顔を埋めて、思い切り吸えばびくりと身体が震えた。じゅっ、と音が出るまで強く吸うと、真っ白な首筋にイチゴのような赤い色が残る。くつきりと付いた所有の証に自然と口角が上がった。

「お前さー、実は菓子の妖精とか、砂糖の精霊とかじゃねえ？」

「なにそれ……っ、あ、ダメ……」

首筋の次はつんと立った乳首に狙いを定める。本当に同じ男とは思えないほどかわい乳首をべろりと舐めてやると、頭を抱えられた。こいつの「ダメ」は「イイ」ってことだと知ったのはつい最近だ。もう脳内では「もっとして♡」に変換済みである。遠慮なくぶつくりしてる乳首を口に含んで甘く噛んでやれば、ひゃあ、と女みたいな高い声が上がった。

乳首も声もなんでも甘い。本当にこいつは砂糖でできているんじゃないかと疑ってしまっ。

「りゅ、りゅじ……も、……」

もじもじと脚を擦りつける姿に思わず心臓が跳ねた。最初はえっちなんでしたくないつて態度だったのに、回数を重ねるごとにどんどん積極的になってきた。あの薫が

俺を求めている、その事実には竜司の身体は熱を上げた。

「ん、おっけ」

ズボンのポケットから準備してあったコンドームを取り出して乱暴に歯でパッケージを破る。中身を取り出すと既に勃っている自身へと装着した。びったりとしたゴムの感触にすっかり慣れたものだなあと笑みがこぼれる。それだけ薫と身体を重ねたという事実には言いようのない幸福感が込み上げた。

「りゅーじ……」

「わかってるよ」

切なげな声に応えるようにやわらかな髪に口付けをひとつ。鼻先に香るコーヒーのいい匂いを吸い込んで、すっかりほぐれた薫の奥まったところに自身の息子を擦りつけた。ひくり、と反応するカラダがいとおいしい。

「ん……っ、あ、」

ずぶり、と切っ先を入れてしまえばあとは早い。ずぶずぶと薫の胎内へと入り込めばあたたかいそこが竜司のものをきゅきゅと甘く締め付ける。一番奥まで突き入れて、はあ、と息をこぼした。

「きもちい……」

声に自然と熱がこもる。何度入ってもこの感覚は心地いい。同じ男の身体であることが不思議なほど、薫の身体の中はあたたかく竜司を包みこんでいる。りゅーじ、とか細い声に呼ばれてみれば、うっとりとした瞳が行為の続きを促していた。早く動いてと声に出さなくてもわかる。はくはくと開け閉めを繰り返す唇に深く口付けた。遠慮がちに伸ばされた舌を絡めとり、舐めあって、じゅるりと吸い付く。震える身体を抱きしめながら微かに舌先に感じた甘さに酔いしれる。

ほのかに感じる、甘いチョコレート味。

(そう言えば、こいつチョコレート好きだったな)

この行為が始まる前に薫が嬉しそうに食べていたのを思い出す。彼はコンビニに売っているような安っぽいチョコレートも、お高いチョコレートもどれも好きで、いつも食べているときは普段の倍以上顔が緩んでいる。好きなチョコレートとかあるのか、と聞けば

「チョコレートならどれも好き」と答えるのが薫なのだ。それを思い出すと菓子の精霊というより、チョコレートの化身なのかもしれない。

チョコレート独特のとろけるような甘さを追うように奥へ奥へと舌を伸ばしながら、唾内を貪る。溢れ出る唾液を舌に乗せて啜り、怯えるように逃げる舌を絡めとる。このまま舐め続ければ、チョコレートみたいに薫が溶けてなくなるかもしれない。ふとそんな考えがよぎる。瞼を持ち上げると頬を染めて一生懸命舌を差し出す薫が見えた。長い睫毛の縁に大粒の雫が滲み、差し出されている舌は散々吸ったりんだりしたからふやけてしまっている。とろとろに蕩けた表情に『もつとしたい』という欲望が頭の中を満たしていく。

「ん、んう、ん~~~~っ♡」

ふやけた舌に甘く噛みつき、ゆるく身体を揺さぶる。鼻にかかるような甘い声ごと飲み込むように唇をぴたりと合わせて奥を突けば、薫の身体がまた温度を上げた。じわりと汗の滲んだ身体からふわりと甘そうな香りが立ちのぼる。

「薫、おまえほんと、あめえ……」

ようやく唇を離れた時には薫の唇はイチゴみたいに真っ赤になっていた。はくはくと震える唇から息を吐き、とろりと蕩けた瞳からシロップみたいな涙が溢れて頬を滑っていく。零れていく涙を「もつたいたい」と舐めれば砂糖みたいな甘い味がした、気がした。

「りゅ、じ……っ♡」

「ん、」

言葉にしなくても分かる。薫の身体が一番奥へと硬い肉棒でぐりぐりと擦れば、発情した獣のような鳴き声はひっきりなしに上がった。きゅうきゅうと吸い付いてくる胎内が気持ちよくて何度も何度も抉るように最奥を穿つ。

無意識に逃げようとする薫の腕を引っ掴んでシートへと縫い留めながら、真っ白な首筋に歯を立てた。

「ひっ、ア、あん！ あ、りゅじ、りゅじ……っ♡」

「ん、かおる……っ♡」

竜司は、自身にとってのあまいあまいご馳走を余すことなく食べ尽した。

「薫、チョコいる？」

「あ、うん。欲しい」

昼休み。杏と薫と竜司はいつものように教室の片隅でランチタイムを過ごしていた。新発売って言われたら買っちゃうよね、と杏のネイルを塗られた指が安っぽいチョコレート菓子の包装を破る。中から一口サイズのチョコレートを摘まむと、「あーんして」と声を掛けた。杏の指示通りにした薫の開いた口へ、小さなチョコレートが一粒、ひよいと放り込まれる。唾内の熱でじわりと溶ける甘い菓子に薫の表情が緩んだ。

「俺にもくれ」

「あれ、竜司って甘いもの好きなんだっけ」

ん、と伸ばされた骨ばった手にごろりとチョコレートが乗る。口の中へ入れれば熱によつてシワリと溶ける。ねっとりとした甘さのチョコレートの味に、昨日の薫の姿を思い出した。チョコレート菓子ひとつで蕩けた笑みを晒している彼の服の内側には、昨日の行為の痕が残っている。やわらかな身体と甘い味を思い出して竜司はペロリと唇を舐めた。

「おう、好きだぜ、あまいの」

舌の上でチョコレートを転がしながら、昨日噛んだ首筋へ指をやる。ハイネックの制服の上からなぞるように触れれば頬を赤くした薫と目が合った。チョコレートみたいに甘く、蕩けた瞳に竜司が映っている。その事実満足そうな笑みを浮かべながら、竜司は早く目の前の恋人を食べたくて仕方が無くなった。

口の中のチョコレートよりも甘い、甘い菓子。

この甘い菓子は誰にもやらない。

SUSHIYA./鮭戸 アユム。(@sssushi_aaa)
sssushi.aaa@gmail.com
<http://su-c-q.sakura.ne.jp>

スペシャルサンクス / みけさん (@xnd)



印刷
HOPE21さま

発行日 2018/10/28



SUGER SUGER

R18
UNOFFICIAL FAN BOOK

by SUSHIYA.

